

調布教会 教会学校 週報

2025年度 みことば



「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」
ヨハネによる福音書3章16aより

きょうかいがっこうれいはい
教会学校礼拝プログラム

2025年 4月13日

ぜん そう
前 奏
*賛 美

「主イエスの十字架の血で」 プレイズ&ワースhip 174

いの
お祈り

天の父なる神様、レントも最後の受難週に入りました。私たち全人類の罪の赦しと解決の道を備えるために十字架の苦しみの道を、自ら選び通して下さったイエス様、そして私達の想像をはるかに超えた愛のお姿を今朝心に刻むことができますよう導いて下さい。また、私達一人ひとりにイエス様に倣って神様と人に仕える道を歩むことができますよう導いて下さい。このお祈りをイエス様のお名前を通して感謝して御前におささげいたします。 アーメン

せい しょ
聖 書

マタイによる福音書27章32～56節【日本聖書協会 共同訳】 新約聖書 p. 56

こうどくしへん
交読詩編
説 教

交読詩編 (11) 詩編85 より こどもさんびか p. 205

「愛の証 十字架」

祭司長や律法学者たちは人々を先導し、とうとう総督ピラトはイエス様を十字架につける判決をくだし、イエス様は十字架を担がされ丘へ向かわれました。途中その重さのため兵士たちは近くにいたシモンに代わりに十字架を担ぐよう命じ、ゴルゴタの丘に到着。すぐに兵士らはイエス様の両手両足に太い釘を打ち付け十字架にはりつけにしました。周りでみていた人々や祭司長らはそれを見て「神殿を壊し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りて来い。」とイエス様を嘲笑し辱めました。イエス様はどこまでも身を低くされ、御父の御心に従い通され、私達全人類の罪の解決の道を開かれたのです。私達も主に倣って歩みたいですね。

あんしょうせいく
暗唱聖句

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。
ヨハネによる福音書3章16節

もくそう
黙想タイム
*賛 美

「冠も天の座も」 讃美歌 21-443

けんきん かんしや
献金と感謝のお祈り 24-1

*主の祈り

天にまします我らの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いだしたまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 アーメン

し
お知らせ

- ・来週はイースター合同礼拝です。分級は9時半集合で「たまご探し」です。お楽しみに！
- ・主日礼拝前半の「子ども説教」への出席をお待ちしています。
- ・教会に来られない時は、LINEを利用して家庭礼拝をおささげしましょう。

*賛 美
*祝 福
*後 奏

36 いまでかけよう

八木 浩史 牧師

◆十字架につけられる

兵士たちは出て行くと、シモンという名前のキレネ人に出会ったので、この人を徴用し、イエスの十字架を担がせた。そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、胆汁を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその衣を分け合い、そこに座って見張りをしていた。イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。同時に、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右にもう一人は左に、十字架につけられた。そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスを罵って、言った。「神殿を壊し、三日で建てる者、神の子なら、自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。彼は神に頼ってきた。お望みならば、神が今、救ってくださるように。『私は神の子だ』と言っていたのだから。」一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスを罵った。

◆イエスの死

さて、昼の十二時から全地は暗くなり、三時に及んだ。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」という意味である。そこに立っていた何人かが、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言った。するとすぐ、そのうちの一人が走り寄り、海綿を取って酢を混ぜ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませた。ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう」と言った。しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。その時、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りに就いていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人に現れた。百人隊長と一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「まことに、この人は神の子だった」と言った。

またそこでは、大勢の女たちが遠くから見守っていた。イエスに仕えてガリラヤから従って来た女たちであった。その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母がいた。

さんび

しゅ じゅうじ か ち 主イエスの十字架の血で

しゅイエスのじゅうじかのちで
わたしはゆるされ みかみとわかいをして
へいあんをえました
だからいますべてのなやみを ゆだねよう
しゅはここに へいわをみたくてくださる



かんむり てん ざ 冠も天の座も

1. かんむりもてんのざも おしまずにすてて
ちにくだるみこイエスを とめるへやはない

* (くりかえし)

おいでください イエスよ ここに このむねに

2. みつかいがこえたかく えいこううたうとき
みこイエスはうまごやで うぶこえをあげた *

3. きつねにはあながあり とりにすはあるが
かみのこのやすまれる ねどこはあれのだ *

4. かなしみなやむものを ときはなつイエスを
ゴルゴダでくるしめた ひとのつみふかさ *

5. てんごくにえいえんの へやをそなえられ
しょうりのしゅはわたしを みもとによばれる
よろこびにあふれて しゅのもとにゆこう

